

## 『ホイスコーレ札幌(社会人の学びの場)創設』

ホイスコーレ札幌 代表 生越 玲子 (おごし・れいこ)



**略歴:**北海道生まれ。1989年陶芸家下澤敏也氏に師事。96年南区藤野に木賊焼(とくさやき)工房「玲子クレーアート」開設。03年北海道東海大学北方圏文化学科社会人入学。03年スウェーデン ダーラナ大学語学留学。06年北海道東海大学大学院入学。07年 デンマーク、ヘルネスホイスコーレ留学4カ月間。08年北海道東海大学大学院国際学修士取得(修士論文「北海道における生涯学習のニーズと現状及び期待される形態」)。08年9月 第1期「ホイスコーレ札幌」(社会人の学びの場)創設(共催:東海大学)。11年4月 第6期「ホイスコーレ札幌」開講中。01年道美展陶芸部門入選、02年道美展 陶芸部門入選。国内はもとよりスウェーデン各都市で「木賊焼」の個展・作品展を開催。また、06年9月にはスウェーデン リンチョーピング市で開催のHOKKAIDO STYLE 2006に「木賊焼」で参加。また、89年から08年の20年間、藤野住民有志で発足した「230音楽鑑賞会」に演奏者を招聘し音楽会を35回開く。

我が国は世界一の長命国になり、社会人の活動の場、学習の場が求められている。デンマークにはグルントヴィ(1793-1872)の思想に基づいたフォルケホイスコーレ(国民高等学校)があり、その一つのヘルネスホイスコーレは社会人を対象にした学びの場となっている。このホイスコーレに4カ月間留学する機会を得た。

帰国後、このヘルネスホイスコーレを参考にして、我が国の社会人のための学びの場として「ホイスコーレ札幌」を2008年9月に創設した。社会経済の事情が異なる我が国では我が国に合った学びの場を考える必要があり、その求める思想は類似であってもその形態は大きく異なる。

「ホイスコーレ札幌」は東海大学の共催、札幌市教育委員会、札幌市南区の後援を得て創設した。週1回、12回の講義を一期とし、春季と秋季に開催している。デンマークでは国から70%の助成金があるが、ここでは運営費は受講者の低額の受講料のみで賄い、他からの補助費はない。東海大学の教官及び社会の有識者に講義を依頼している。受講者の発表機会もあるため参加意識が高い。講義は、例えば第6期では、『食糧生産』『世界と協調』『健康』『社会』『伝統音楽』など多岐にわたり、それぞれの専門家が担当している。教室は東海大学の講義室を借用し、学生も手伝っている。また大学の外で課外研修を行っている。現在までの講師の延べ人数は72名、受講生は延べ313名となっている。

受講者は札幌市を中心として地域に広がっている。第6期の受講者は55名、年齢は40代から80代にわたり、第1期から第6期まで継続している受講者が多い。「ホイスコーレ札幌」に参加することにより生きがいを見つけた人、病いからのストレスが軽減した人も見られる。

第4期には、デンマークのホイスコーレ2校のカールセン校長、ニールセン校長両夫妻を招き、東海大学札幌キャンパスと「ホイスコーレ札幌」の共催で『世界一幸せな国をつくった教育の源流を探る』と題し、シンポジウムを開催した。

第5期には受講者を対象に人生のために何が重要かを調査し、ヘルネスホイスコーレの調査と比較した。「ホイスコーレ札幌」における重要さのトップ5は健康、家族、お金、友人、安全であり、ヘルネスホイスコーレにおける自己認識、安全、健康、愛、誠意とは異なった。向学心(学び)は両者ともトップ10に入っているなど、興味ある結果が得られた。

日本生涯教育学会に所属し、多数の会員との交流の機会を得た。これを契機に5期修了後には「人がつながる、地域がつながる、世界がつながる」と題した徳島大学で企画されたフォーラムに参加した。徳島大学の教官、学生、社会人や、中国、韓国、モンゴルの講師、「ホイスコーレ札幌」からは受講生14名が参加し、それぞれの国の抱える問題や、民族間の問題を認識した。第6期では徳島大学の教授による講義を計画実行した。

「ホイスコーレ札幌」は経験豊かな社会人の集まりであり、継続者が多いことでコミュニケーションが深まり、課外研修や交流会の手助けを進んで行うなど、受け身だけの集まりではなくなっている。課題の一つとして受講生の90%以上が女性であり男性の受講者が少ないことが挙げられるが、今後も人の相互作用の中で自分を見つめなおす場として「ホイスコーレ札幌」の継続をめざしている。

最後に、本「ホイスコーレ札幌」の創設、継続には東海大学西村副学長、同川崎教授はじめとして多くの方々のご理解、ご協力があったことを記させていただきます。